

牧師の働きを共に担う信徒牧者養成のために

牧師へのお願い

◆職への召命

御教会の方が信徒伝道者に導かれているということは、必ずしも本人からの申し出によるばかりではありません。牧師の祈りのうちに、またその方の真実な教会生活と、周囲の信徒の皆さまの厚い信頼を前提に、牧師からの勧めが主の召命を受ける呼び水になるケースもあります。

本人の申し出による場合も、牧師からの勧めによる場合も、いずれも、それが主からのものであることが確かめられることが大切です。祈りのうちに、御教会の信徒の皆さまについて、主の導きを求めていただきたいと思います。

◆実効的職務

信徒伝道者は、認定後の働きが「実効的であること」が職務として期待されています。

具体的には、以下の二点を視野に入れています。

- 1 牧師の判断のもとに、牧者のマインドをもって、説教を含めたその教会の働きの一部を牧師と共に担っていただけること。
- 2 地域の教会に必要な場合、説教の奉仕に赴くことができる可能性があること。これは国内教会局からの要請が前提になります。必ずしも全員ということではありません。

信徒伝道者の働きは実務的なものであり、教会の中で取りまとめをしてもらうために、いわゆる「箔や肩書きを持っていただく」ことは、その趣旨ではありません。

これらのことをご理解の上、教会と群れの祝福のために、牧師各位のお祈りとご協力をお願い致します。

牧師の働きを共に担う信徒牧者養成のために

Q 何が求められている職務ですか

◆所属教会内での働きです。信徒伝道者として説教の奉仕を委ねられることはすばらしいことですが、同時に、群れ全体に思いをはせる牧者であることが大切です。

牧者として愛する兄弟姉妹のために祈ったり、牧師の立場や視点からものを見たり、新しく来られた方に、暖かく声をおかけしたり、牧師の仕事で必要なことがあった場合には快く補ったりする、

「バスター・マインド」が求められます。

◆国内教会局からの要請により、他の教会での説教の奉仕を依頼される場合もあります。

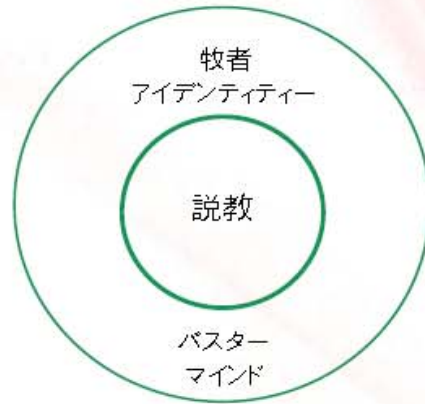
Q 年齢や状況などには制限があるのですか

必ずしも引退後である必要はありません。何よりも大切なのは主の導きであり、信徒伝道者の趣旨に沿って奉仕くださる方であれば、お仕事が現役の方でも尊く用いられることができる職務です。

信徒伝道者は一年更新であり、更新するためには、原則、毎年秋に持たれるスクーリングに参加することが求められます。万が一参加が不可能な場合には、他のものをもって代えることも可能です。

年齢の上限は、原則75歳までです。認定を更新するかについては、所属教会の牧師とよく相談して決めてください。

Q どのような研修を受けて奉仕に就くのですか



Q 信徒伝道者も牧師のように召命が必要なのですか

信徒伝道者としての立場は、自分の願望ではなく、信徒の働きの枠の中にありながら、キリストの体である教会にお仕えするという意味で、それが主からのものであることという信仰的な理解が欠かせません。

「自分の願いや願望ではなく、主からのものである」という納得を「召命」といいます。

それでは、その召命はどのようにして確かめられるのでしょうか。

1 教会の承認 ~本人は何も考えていなかったときに、牧師先生から勧められたということもあります。信徒伝道者にエントリーする際には、教会の牧師はもとより、信徒の方の推薦状が必要です。教会の働きは、「この方は教会の働きに導かれている」という教会の皆さまの信頼と納得がなければ行うことはできません。

2 本人の納得 ~きっかけはいろいろであっても、各方面の方々との相談や本人の祈りの中で、自分は信徒伝道者として奉仕するように導かれているという納得に至るものです。

3 環境的導き ~その導きが主からのものであるときには、例外なくということではありませんが、教会の事情や家族の事情、また年齢や健康に関する環境が後押ししてくれることがしばしばです。また、信徒伝道者として認定されるためには、所定のエントリー手続きと、認定を受けるための研修が必要です。これらのことが無理なくクリアできることは、それが主からのものであるという受け止めをするためにとても大切です。

大切な事ですので、あくまで慎重にみこころを求め、そして決める時には信仰をもって決然と、主のみこころに従ってください。

